

全釧路情報

2015.10.5 No.21 全釧路教職員組合

釧路合研に51名が集まり、学び合いました

9月27日の釧路合研には、51名もの参加者が集まって、子どもの実態や授業について学び合いました。ここ数年の間では一番の参加者数です。教育大の学生も多く参加しました。

講演は、道新記者の佐竹直子さんに、生活綴方事件の取材から見て感じたことを語って頂きました。取材への熱い思いと、そこから見えた理不尽な事実は、聞いていて胸が熱くなりました。

今年の合研は、教科別の分科会を行わず、4つのテーマ別討論を2コマに分けて行いました。それぞれのテーマごとに、保育所から高校まで、また、子どもに関わる様々な立場からパネラーとして提起があり、会場の参加者ととも議論を深めました。そして、様々な立場の人たちが、共通の願いを持って子どもに関わっていることも確認されました。

分科会がなかったため、全道合研は公募によって決定します。ぜひ参加して、日々の実践や思いを発表してください。



●参加者の感想

☆佐竹さんの講演について

- ・何かを企む権力者にとって最も怖いことは、民衆が生活の現実をしっかりと見詰め直すことであるということをつくづく感じました。ある道教委の指導主事が、学生への講演で「日本の教育で最もすぐれた点は、どこに行っても全く同じことを教えているということです」と言っていました。今や教育は、多様な考えが世の中にあることさえ知らせることも難しくなっています。戦後を戦前にはしてはいけません。
- ・佐竹さんのお話は、何度聞いても後から後から新しい事実が出てきて、まだまだ広がりを見せるのだなあと思いました。それだけ奥が深く、日本の歴史に埋もれさせてはいけないことだと思いました。まだまだ聞く機会を持ちたいと

思います。お話の中、何度も涙をふきました。

- ・この釧路で実際に起きたことなんですね。釧路にそのような先生がいたことを誇りに思うと同時に、当事者、ご家族、子どもたちの悲しみや苦しみ、心の傷を思うと言葉もありません。埋もれていた歴史を自らの手で掘り起こされた佐竹さんに敬意を表します。
- ・佐竹さんの講演を聞くのは2回目ですが、今回は学校現場に勤める私にとっては戦前の教師達の教育実践の一端に触れることができ、感動しました。そして私が今忘れそうになっている教育に対する情熱を思い出させてくれました。

☆テーマ討論①「私たちがめざしている学びや授業とは」について

- ・中学・高校のことを聞くことがあまりないので、もっと聞きたかった。本物に触れる、感動することの大切さ、感動のある日々をつくっていきたいと思います。

- ・午前中の講演とつながった話が、それぞれのパネラーの皆さんから聞いて、また涙が何回も出そうでした。“子どもたちに希望を語りたい”本当にそう思いました。

・保育園から高校まで、子どもたちを中心に同じ気持ちで学びをつくっているなあと思いました。この討論は2回目です

すが、新鮮でいいですね。

☆テーマ討論②「釧路の子どもの現状をリアルに見つめる」について

- ・行政の方も参加してくださって、論議が深まった。やっぱり多角的な視点で見るとは大事。子どもの実態は思ったより大変だと思う。
- ・行政の立場の人の話で、初めて知ったことがありました。少子化とともに貧困の連鎖が問題となっている今、将来の

日本を背負う子どもたちの育ちを、関係する人たちが横のつながりを持ち、知恵を出す必要があると感じました。

- ・育児支援の制度を知られてよかったです!学校、行政とそれぞれでやっていることを交流し合うことで、保護者や子どもへ還元できることがまだまだありそうだと感じました。

☆テーマ討論③「道徳の教科化をどう考えるか」について

- ・子どもの内面の自由、自分だけの“良心”を守るスペースを保障できるかどうか。教師や親、大人が“良心”の担い手として、何らかのモデルや手がかりを提供できるかどうか、自分自身が、“生き方”に関わる迷いも含めたスタンスを、実生活の中で持っているのかが大事になる。
- ・子どもが考えるとは押しつけられるものではなく、自分の

生活現実と結びつけて、子どもが学び取るということが分かりました。

- ・釧路の母親大会の時、弁護士さんに道徳の教科化についてたずねたら「答えが決まっている授業はだめだ」と話されていました。「なぜと問う道徳」でいきましょう。参加者の皆さんのお話も参考になりました。

☆テーマ討論④「配慮の必要な子どもの育ちを考える」について

- ・少ない人数で、内容の濃い話、みんなが話せる雰囲気よかったです。学生さんも参加してくれてよかったです。
- ・保育の話、久々に聞けたりして、よかったです。制度と意思の葛藤ありますね。小さな声でも声をあげていくことはとても大事だなと思いました。

- ・保～高まで様々な立場の話が聞けてよかったです。障害はその人特有のものではなく他者との関係性の上で発生するということを強く実感しました。学校の中で、もつとゆとりをもってその子その子に必要な力をつける教育を実践できればと切に思いました。

全道合研に参加しよう!

- ▼釧路合研では分科会を行いませんでしたので、全道合研のレポーターは公募で決定します。参加される方は、氏名とレポート名の報告をお願いします。
- ▼傍聴での参加希望もありましたら、連絡ください。
- ▼記念講演の講師は、芥川賞作家の池澤夏樹さんです。沖縄基地問題や原発問題でさまざまな発信を続けられています。著書には『憲法なんて知らないよ』というキミのための「日本の憲法」など。

11月7日～8日 **会場 札幌学院大学**


● **テーマ討論** (仮題) 【7日 9:45～12:15】

- ①戦後70年、被爆70年、憲法と平和を考える
- ②18歳選挙権の実現、高校生や若者に身につけて欲しい力とは何か
- ③インクルーシブな教育づくりの方向性
- ④豊かな心を育む道徳教育の創造
- ⑤学校、地域で「アイヌ民族」はどう教えられているのか

● **分科会** 【7日 13:30～16:15/8日 9:30～15:00】

● **教育の夕べ** 【7日 16:30～18:30】

「原発、沖縄基地、憲法、教育…」
～日本の将来、北海道の未来～
小説家、詩人、北海道文学館館長
池澤夏樹さん



連続教育講座in白糖

8月29日(土)に行われた白糖での連続講座は、白糖支部田中豊一先生を講師に、特別支援教育について学びました。予想を超える人数が集まり、途中で会場を広げての開催となりました。1時の駅前宣伝から引き続きの参加となった先生も多くいました。

白糖支部には、急な要請にもかかわらず、素晴らしい講座を用意していただきました。11月には、阿寒支部で3回目の講座が予定されています。

